

Dio ne havas eklezion

verkita de Trevor Steele
eldonita de Flandra Esperanto-Ligo, 2015
270 paĝoj

この小説の舞台は、ポリネシアの小さな島々から成る、漁業を中心とする平和な国である。そこを津波が襲い、多数の住民が死亡し、港や漁船、住居にも甚大な被害が発生する。とりわけ被害が大きかったハキルーレ島では、住民が茫然自失しているのをこれ幸いと、オーストラリアの企業が海岸沿いに高級ホテルを建設し、先進国の富裕層向けのリゾート地として開発しようと企てる。また、大統領はその企業と結託して私腹を肥やそうとする。

他方、主人公のブルースは戦争や巨大災害を報道する世界的に有名なカメラマンであるが、家庭生活を顧みなかったため妻に去られ、それに加えて戦地や被災地を駆け巡る生活に疲弊している。ハキルーレ島に取材に赴くが、そこでついに倒れてしまい、現地の女性パーペチュアに介護されることになる。肉体的・精神的に極めてタフであったにもかかわらず、突然強い悲哀の感情に襲われて泣き出したりする。こうして、平和な伝統社会を外から突然襲った危機と、主人公の内面の危機とが絡み合いながら、物語は進行していくことになる。

ブルースは、パーペチュアやその父親で神父 (!) のパトリックと会話を交わしたりするうちに、次第に心身ともに回復していく。やがて、彼とパーペチュアとは愛し合うようになる。その間にも、当局は海岸を封鎖して立入禁止にし、住民はこれに対してデモ行進により抗議するが、軍隊が発砲して、デモの先頭に立っていたパトリック初め多数の住民が虐殺される。自然災害の直後に人為的な災害に襲われて、住民の共同体は解体の危機に襲われる。

幸いなことに、ようやく病が癒えたブルースの活躍によって、住民は再生へのきっかけを与えられる。ただし、彼らを選んだ道は意外にも、大企業やそれと結託した権力に戦いを挑むのではなく、数百キロメートル離れた彼らの父祖の島に移住することであった。ブルースは企業に要求して船や食料を出させ、住民はそこに向けて船出してゆく。グローバリズムともリゾート開発とも横暴な権力とも無縁の地で、引き続き漁業中心の自給自足の生活を再建しようというのである。ブルースとパーペチュアは彼らと別れてオーストラリアに向かう



ことになる。

というところが大まかなあらすじであるが、この作品では、自然災害のために現地住民の伝統的な社会が一掃され、彼らがショック状態にあるすきに、企業と政府が結託して一挙に開発を進めようと企てる。「惨事便乗型資本主義」の典型的な事例である（ナオミ・クライン『ショック・ドクトリン』、岩波書店、2011年、参照）。2004年のスマトラ沖大地震に伴って津波が発生し、スリランカを襲った。本作品の構想には、この津波とその後の経過が踏まえられていよう。本文中でもブルースはスリランカに何度か言及している（津波そのものに関しては、2011年の東日本大震災で発生した巨大な津波を撮影した恐るべき映像も作者の念頭にあったのかもしれない）。

ところで、作品の後半では、ブルースは、変装して企業に乗り込み、やおらかつらや付けひげを外して名乗りを上げ、要求を突きつけるなど、大活劇を繰り広げる。また、彼とパーペチュアはいったん別れを余儀なくされるものの、ほどなく再会し、より強く結ばれることになる。こうしたドラマチックなストーリー展開と、登場人物たちの精彩に富む会話によって、この作品は上質なエンタテインメントに仕上がっていて、読者を飽きさせない。

他方で、しかし、そうした劇的な展開の合間に、登場人物たちは、キリスト教、アニミズム、生と死、輪廻転生などのテーマについて延々と議論を繰り広げる。そこには神学校を中退して以来の作者の内面的遍歴が反映していよう（この点については、作者の自伝 *Konvinka Kamuflojo*、2014年、参照）。ただ、この作品は、基本的にはブルースの魂の覚醒のプロセスに焦点が当てられているので、住民のアニミズム信仰や、彼らの社会のあり方については、「外から」見ることになって、具体性に欠け、美化されすぎているように思われる。

とはいえ、この作品は、まず野放図な惨事便乗型資本主義に対する批判の書であり、また、主人公たちが苦難を経て愛を实らせるラブストーリーであり、さらには宗教的なテーマなどについて延々と議論が続く、いわば議論小説でもある。そうしたいくつかの要素が巧みに織りなされていて、読者は大いに楽しめることだろう。

（La Movado 2017年2月号掲載。）

（追記）

本文中で言及した *Konvinka Kamuflojo* については、この伊藤俊彦「読書日記2015～」の7に書評を掲載したので、一読していただければ幸いである。